

あいち 国際プラザ



2026.3 No.168

AIA AICHI INTERNATIONAL ASSOCIATION

公益財団法人 愛知県国際交流協会
ニュースレター



紙の一枚

碧南市ベトナム人協会の皆さん

■ 2～3 ページで「今、いちばん身近な国ベトナム～県内外国人人口トップの国～」を特集しています。

Contents

特集 今、いちばん身近な国ベトナム～県内外国人人口トップの国～ P.2～3

- AIA だより 協会の主催・共催事業などを掲載しています P.4～6
「第2回コミュニティ通訳講座」を開催しました
令和7年度国際交流推進功労者表彰式
「国際交流・多文化共生コーディネーター講座」で“5S”を学びました！
日本語ボランティア入門講座 in 瀬戸市を開催しました！
- Focus on ! P.7
国際交流ステーション さくらんぼ塾
世界の街かどレポート JICA 海外協力隊 ラオス
- CIR マックスのまなび日記 P.8
- 編集後記・協会案内図 P.8

当協会では賛助会員を募集しています。詳細は [愛知県国際交流協会 賛助会員](https://www2.aia.pref.aichi.jp/somu/j/send/boshu.html) で **検索**
<https://www2.aia.pref.aichi.jp/somu/j/send/boshu.html>

今、いちばん身近な国ベトナム～県内外国人人口トップの国～

2025年、愛知県に暮らす在留外国人の数に大きな変化がありました。これまで長年トップだったブラジル人を上回り、はじめてベトナム人が最多となったのです。技能実習や特定技能、技術・人文知識・国際業務、留学などの在留資格を持ってベトナムから日本へ渡る人の流れは年々増え続けています。いま、私たちのすぐそばに「もっとも身近な外国人」として暮らすベトナムの人々。この特集では、彼らの暮らしや背景、そして文化を紹介しながら、共に生きるこれからの地域の姿を考えます。

なぜ今、ベトナムの人がこんなにも多く日本に来ているのでしょうか？その理由のひとつが、「仕事」のためです。日本では人手不足が続いており、とくに工場や建設、介護などの現場で外国からの力が必要とされています。ベトナムの人たちは、技能実習や特定技能といった制度を使って来日し、さまざまな職場で働いています。愛知県には、働くために来た人のほかにも、学ぶために大学や日本語学校に通う学生や、地域で子育てをしている家族など、さまざまな人が暮らしています。

彼らが直面している問題、課題について、碧南市ベトナム人協会の会長フン・テ・トゥンさんに質問にお答えいただきました。

■ Q1 現在、日本に住むベトナム人の方々が抱えている課題は何でしょうか。

日本に住むベトナム人は、言語の壁による交流不足や労働環境の問題（低賃金や過重労働）、キャリア形成の困難さ、行政手続きの複雑さ、文化や価値観の違いなど、さまざまな課題を抱えています。特に技能実習生や留学生は、生活や仕事の質に直結する深刻な問題に直面しています。



■ Q2 日本の文化や生活ルールの違いで起きやすいトラブルは？

誤解やトラブルは、コミュニケーション方法、生活習慣、公共マナー、ビジネスマナーに多く見られます。例えば、日本では非言語や建前を重視するため、外国人は意図を誤解しやすいです。靴を脱ぐ習慣、ゴミの分別、公共の場での静粛性なども理解不足でトラブルになりやすく、仕事では報告・連絡・相談や時間厳守なども課題です。

■ Q3 仕事の面での課題は？

言語や文化の違い、不十分な安全教育、労働条件の不平等が原因で、ストレスや孤立、労働災害が発生しやすい状況です。特に経験の浅い技能実習生は事故に遭いやすく、安心して働くためには安全教育や言語サポート、適正な労働条件が必要です。

■ Q4 碧南市ベトナム人協会ではどのようなサポートを行っていますか。

市内広報やSNSで情報を共有し、日本語ボランティア教室を通じて文化や生活、仕事の課題を話しやすい雰囲気の中で交流しています。イベント参加を通じた交流で、意見交換や日本文化の理解を深める活動も行っています。

■ Q5 日本社会や地域に知ってほしいこと、求めたい支援はありますか。

多様な背景を理解し、個人として尊重することが大切です。言語や文化の壁を乗り越えるための多言語情報提供、日本語学習機会、地域交流の場、就労・生活支援が求められます。こうした取り組みを通じ、ベトナム人が地域社会の一員として安心して暮らせる社会が期待されます。

ベトナム社会主義共和国

- 人口** 約1億30万人
- 首都** ハノイ
- 面積** 32万9,241平方キロメートル（日本の9割弱）
- 言語** ベトナム語
- 主要産業** 農林水産業（コメ、さとうきび、キャッサバ、コーヒー、えび、パンガシウス等）、鉱工業・建築業、サービス業



ベトナムの国旗

「金星紅旗」と呼ばれ、赤は革命で流された血、星の5つの光はそれぞれ労働者・農民・軍人・知識人・商人を表しています。

出典：外務省 HP、農林水産省海外農業情報

ベトナム基本情報

ホイアンのランタン祭り

古都ホイアンでは満月の夜にランタンを灯し、灯籠を流します。『ホイアンの古い町並み』はユネスコの世界遺産に登録されています。



バッチャン焼き

ハノイ近郊にあるバッチャン村でつくられる陶磁器で、赤や緑のあざやかな絵柄や、しびい青のものが代表的。



水上人形劇

農村で生まれた、千年以上の歴史がある伝統芸能。水の上で人形がコミカルに動き回ります。



ベトナムの文化

フォー

ハノイを中心とする北部発祥の麺料理。米で作った平たい麺を、ヌックナム（ベトナムの魚醤）などで味付けしたあっさりとした鶏だしのスープでいただきます。



ベトナムコーヒー

ベトナムはブラジルに次ぐ世界第2位のコーヒー輸出国。フランス式の独特の茶器でいれ、練乳をたっぷり加えると甘いコーヒー。



バインミー

フランスパンのサンドイッチ。町のあちこちで売られていて気軽に買って食べられる軽食です。フランスパンを食べる習慣は植民地時代に広まりました。



ベトナムのデザート チェー

甘く煮たイモや豆、寒天やタピオカ、フルーツなどを合わせて食べる「甘いスープ」という意味の伝統的なスイーツ。



ベトナム・ホーチミン市生まれで、当協会のベトナム語講座講師を務められたご経験もあり、通訳や講演など幅広い分野でご活躍されている原田美河さんに、「ベトナムと日本をつなぐ日々・愛知で暮らして、学んだこと」についてご寄稿いただきました。

私はベトナムから来日して28年目になりました。現在、安城市に夫と子供の4人家族で暮らしています。

来日前に私は旅行会社で日本語のガイドを務めたこと、日系会社で日本語の翻訳・通訳の仕事を経験しました。日本語の会話には自信があったと思いましたが、実際に日本で生活し始めると、その自信は段々失われました。習った日本語は不十分で、日常的なコミュニケーションに壁があると実感しました。毎日トラブル、毎日トライ、毎日冒険のように不安ではありますが、新しい生活文化に触れることにドキドキしていました。電車のアナウンスを聞き取れず駅を間違ったこともあり、みそ汁の作り方を知らず砂糖を入れたこともありました。一番苦労したのはごみ分別とごみ回収日を覚えることでした。一日も早く生活に慣れたいと思い、YAMASA 言語文化学院で日本語を基礎からもう一度勉強しました。又、あいち国際プラザで日本文化の講座に参加し、料理教室で日本の家庭料理を習いました。母国では当たり前なことでもここでは違うかもしれない。「郷に入ったら郷に従え」。生活マナーやルール等は覚えなないといけないことがたくさんありました。私はベトナム料理のホームパーティーをよく開いていました。料理を通じて日本人の友達ができて、ベトナムのことを紹介したり、日本の生活や習慣等を教えてもらったりして、そこで小さな国際交流ができました。他国での出産や子育てはとても不安でしたが、たくさんの日本の友達の助けのおかげで乗り越えて成長していました。いつかその恩返しをしたいと思っていました。

2005年の愛知万博のボランティア活動をきっかけに、日本社会の優しさ、おもてなし精神に感動して、私は日本の福祉を学びたいと思いました。万博終了後すぐ、私はヘルパー2級の講座を受け始めました。その後介護現場で働きながら日本福祉大学大学院の国際社会開発学科の修士課程を修了し、介護福祉士国家資格も取得しました。私は現在、有料老人ホームのユニット長として勤め、愛知県介護福祉士会の理事として活動しています。又、学校や生涯学習センター等でベトナムの文化を紹介したり、ベトナムで日本の介護を広めたりする活動をしています。日越の架け橋になれるよう、できる限り努力したいと思います。

私が来日当時の在日ベトナム人は2万人余りでしたが現在は60万人を超えました。日本社会も28年前と比べてだいぶ変わりました。外国人が増加していると共に日本社会も多様性文化を受け入れやすい環境になりつつあります。昨年介護福祉士会が運営した外国人介護人材のための介護福祉士資格取得支援講座に、多くのベトナム人とその他の外国人が今年度の国家試験に向けて真剣に受講していました。日本で学びたい、日本で稼ぎたい、日本で新生活を始めたい、どんな目的であろうとベトナム人を含めて外国人は現在日本社会の一員として色々な分野で活躍して、貢献しています。

日本もベトナムもお米の文化や竹の文化等を持ち、歴史的な繋がりが多く、遠い国ですが文化的親近感があります。お互いに向き合い、理解し合い、努力すればよりよい社会を作れると信じています。



▲ベトナムで日本の介護を紹介



▲愛知県の学校でベトナム文化を紹介



▲地域でベトナム料理を紹介

ベトナム出身の方々、今や地域にとって身近で大切な存在となっています。お互いの国や文化、人々への理解を深めながら、ベトナムの方々「ここで暮らしてよかった」と感じられる地域を目指していきたいと思ひます。

「第2回コミュニティ通訳講座」を開催しました



11月14日(金)に、外国人ヘルプライン東海との共催事業として、第2回コミュニティ通訳講座「相談支援者のための通訳活用講座」を開催しました。

講師には、医療通訳研究会(MEDINT)代表であり、社会福祉士・スペイン語通訳者として活躍されている村松紀子氏をお迎えし、外国人相談の場面で求められる通訳の役割や、相談支援者が通訳を利用する際に押さえるべきポイントについてご講義いただきました。

前半では、コミュニティ通訳の定義や基本姿勢、通訳を介して相談を進める際の留意点を学び、外国人相談者への対応をより円滑に行うための視点を身につけました。また、外国人相談者が安心して話せる環境を整えるためには、支援者自身が通訳者の専門性を理解し、適切に連携することの重要性を改めて確認しました。

後半では、日本語を用いた通訳の模擬体験を行いました。参加者は、母語であっても内容を正確に伝えることの難しさを実感するとともに、通訳者が日頃から担っている高度な判断や配慮、そして見えにくい負担についても理解を深めることができました。

今回の講座を通じて、相談現場で通訳を効果的に活用するための視点を養うとともに、通訳者が果たす役割の重要性と専門性への認識を一層高めることができました。外国人相談者が安心して相談できる体制を整えるためには、通訳者だけでなく、支援者自身のスキル向上も欠かせないことを再認識する貴重な機会となりました。



▲講師：村松紀子氏(愛知県立大学外国語学部非常勤講師)



▲グループワークの様子

令和7年度国際交流推進功労者表彰式



11月12日(水)、令和7年度国際交流推進功労者表彰式を、あいち国際プラザで行いました。これは、多年にわたり国際交流の推進に尽力された方々を表彰することにより、国際交流の進展に寄与することを目的としているものです。41回目の本年度は、下表のとおり個人の部4名、団体の部7団体を表彰いたしました。

受賞者の皆さん、おめでとうございます。今後のさらなるご活躍を期待しています。

個人の部

(敬称略)(50音順)

氏名(住所)	主な功労
あさの たかお 浅野 貴夫 (岐阜市)	愛知啓成高等学校の英語科教員として勤める傍ら、留学生の派遣、受け入れを先導的に実施した。 カナダのクワリカム高校と愛知啓成高校との交換留学、相互交流プログラムの実現、実施に向け尽力した。また、2018年に開設したグローバルコースの企画段階から現在まで中心的な役割を担うなど、国際交流・国際理解の推進に貢献した。
ながい あつし 永井 淳 (名古屋市)	在名古屋外国公館との交流を通じて国際交流促進に努め、特にこの地域のボーイスカウト活動と韓国との友好関係発展に貢献してきた。 ボーイスカウト団の指導者に就任以来、多くの海外指導者やスカウトとの交流活動を促進、またキャンプの責任者として様々な活動に積極的に関わるなど、国際交流・国際協力の推進に貢献した。
みこし のりお 美越 宣男 (北名古屋市)	北名古屋市国際交流協会日本語ボランティアリーダー及び運営企画会議委員としてイベント等における企画、事業への参加などに率先して携わってきた。また、日本語教室のボランティアとして活動しながら、教育内容の企画や他のボランティアへ研修を行った。さらに、韓国務安郡の中学生のホームステイ受け入れを行うなど地域の国際交流、多文化共生社会づくりに貢献した。
もりの えりか 森野 恵利香 (江南市)	江南市国際交流協会ボランティアとして活動拠点「ふくらの家」の整備に携わり、協会の副運営委員長・理事として市民参加型の様々なイベントの運営の中心的役割を担ってきた。協会の研修では講師を務め、多文化共生について考える契機を与えた。また、外国人生活支援員として、相談者に寄り添い円滑に生活していけるよう親身に相談にあたるなど、地域の国際交流、多文化共生社会づくりに貢献した。

団体の部

(50音順)

名 称 (所在地)	主な功 勞
<small>あいちけんせいねんかいがいききょうりょくたい</small> 愛知県青年海外協力隊を <small>しえん かい</small> 支援する会 (名古屋市)	1977年から約半世紀にわたって、青年海外協力隊を“地域ぐるみ”で支え続けてきた。隊員を派遣前・派遣中・派遣後の各ステージで物心両面から支援するとともに、帰国隊員による地域活性化の実践紹介や国際協力の意義を県民と共有する開発教育セミナーなど多彩な啓発活動を継続し国際協力・国際理解の推進に貢献した。
<small>せいねんかいがいききょうりょくたいあいちけん</small> 青年海外協力隊愛知県 <small>かい</small> OB 会 (名古屋市)	1975年から半世紀にわたって、帰国隊員たちが国際協力の理念と実践を地域に根付かせる目的で「協力隊と語る会」を定期的開催し、担い手育成を行ってきた。また、地域の学校や市民講座で自身の経験を語ることで国際協力の意義や現状を伝えるなど国際協力・国際理解の推進に貢献した。
<small>こくさいこうりゅうきょうかい</small> たはら国際交流協会 <small>たはら きょうしつ</small> 田原にほんご教室 (田原市)	市内の外国籍住民のための日本語教室を継続して開催した。教室での日本語学習だけでなく、防災講座、スーパーでの買い物体験など生活に役立つ学習の実施、また山車ひき、浴衣で抹茶などの日本文化体験やBBQなど地域住民との交流会を実施し、地域の多文化共生に貢献した。
<small>とよあけしこくさいこうりゅうきょうかい</small> 豊明市国際交流協会 <small>にほんごきょうしつ</small> 日本語教室 (豊明市)	市内の外国籍住民のための日本語教室を継続して開催した。学習者のレベルに合わせた学習のほか、生活支援や日本文化、習慣を学ぶ機会を提供してきた。また、学習発表会、お花見などの交流会を実施し、外国籍住民の心の拠り所として地域の多文化共生に貢献した。
<small>なごやさんぎょうだいがく</small> 名古屋産業大学 <small>かんきょうけいざいけんきゅうじょ</small> 環境経営研究所 (尾張旭市)	アジア諸国において環境教育を展開、学校間の国際交流学習を実施した。日本の中学・高等学校及び台湾の高等学校と連携し、緑化木調査プログラムやゼロカーボンスクールを探究するプログラムを開発した。また、生徒による開発教材の作成を支援し、多言語で配信した。さらに環境教育のモデル都市づくりを支援するなど、国際交流や国際理解の推進に貢献した。
<small>にほんご いわくら</small> 日本語ひろば岩倉 (岩倉市)	市内の外国籍住民のための日本語教室を継続して開催した。学習者のレベルに合わせた日本語学習のほか、交流会や健康相談、学習支援を行い、安心・安全な生活の提供、社会参加へのきっかけづくりをするなど、地域の多文化共生に貢献した。
ワールド・スマイル・ <small>ひとつぎ</small> ガーデン ーツ木 (刈谷市)	外国籍住民と日本人住民とのつながりを深めるためのコミュニティガーデンを設置した。月1、2回の農作業のほか収穫物を使った料理パーティー、日本文化体験、地域イベントへの参加など交流を通し相互理解を深めている。また、広報活動により、別地域でコミュニティガーデンが立ち上がるなど、国際交流・多文化共生の推進に貢献した。



▲本年度の受賞者の皆さんと神田会長

「国際交流・多文化共生コーディネーター講座」で“5S”を学びました!▶

みなさまは「5S」をご存じでしょうか。整理・整頓・清掃・清潔・しつけの頭文字を取った、仕事をスムーズに進めるための考え方です。今年度は株式会社活コンサルタント代表取締役の松田英一氏をお迎え、「トヨタ式5Sで、外国人支援をもっとスムーズに！」をテーマに、市町村や国際交流協会の職員等を対象として、申請手続きや生活相談、災害時対応、イベント運営といった日々の業務を題材に講座を開催しました。

講座では「仕事＝作業＋改善」という考え方をもとに、業務に潜むムダや非効率を見直すヒントを学びました。「探す」「迷う」「間違える」といった行為が時間のロスにつながることを確認し、整理・整頓の具体的な工夫も紹介されました。ワークショップでは参加者が自身の業務を振り返り、改善案を考える場面もあり、5Sは単なる片付けではなく、よりよい外国人支援につながる大切な考え方であることを実感する講座となりました。



▲講師の松田氏

日本語ボランティア入門講座 in 瀬戸市を開催しました! ▶▶▶▶▶

瀬戸市および瀬戸市国際センターと共催で、11月から12月にかけて日本語ボランティア入門講座を開催しました。この講座は、参加者が自身の経験やスキルを活かし、地域の日本語教室でのボランティア活動を始めるきっかけづくりを目的としています。

東海日本語ネットワーク代表の酒井美賀氏とらくらく日本語教室代表の田中智子氏にご講義いただきました。全3回の講座の中で、地域に住む外国人と外国人児童生徒の現状、日本語教室の活動内容、大人向けと子ども向け日本語教室の違いなどを学び、実際に、瀬戸市内の日本語教室を見学し、講座で学んだ内容と現場の様子を照らし合わせたり、自分ならどう関わるかを考える機会となりました。最終日には瀬戸市内の教室とのマッチングを行い、多くの参加者が新たにボランティア活動の一歩を踏み出しました。

今回の講座を通して、ご自身の生活の中で行えるボランティア活動が、外国人住民や外国人児童生徒の支援につながることを願っています。



▲講座の様子

いりょうつうやく
あいち医療通訳システム Aichi Medical Interpretation System

..... ❖ 病院で 通訳などが 利用できます ❖



つうやくはけん
通訳派遣
 Interpreter dispatch

でんわつうやく
電話通訳
 Telephone interpretation

ぶんしょほんやく
文書翻訳
 Document Translation

〈対応言語〉 English, Português, Español, Tiếng Việt, 中国語, Filipino, 한국·조선어, नेपाली, Indonesia, ภาษาไทยกลาง, မြန်မာ, عربي

あいち医療通訳システム推進協議会
 ☎052-954-6138 平日9:00~17:30

AiMIS

<https://www.aichi-iryuu-tsuyaku-system.com>


Focus on!

国際交流ステーション

市町村や市町国際交流協会、NGO/NPOなどの活動紹介や最新ニュースをお届けするコーナーです。

さくらんぼ塾 (日本語学習支援基金 日本語教室学習支援事業認定団体)

「さくらんぼ塾では、学習内容が理解できるように日本語の支援をします。」の呼びかけで始めたさくらんぼ塾も4年目を迎えました。

さくらんぼ塾は、月曜日～金曜日の16時～19時、土曜日の10時～12時に開催しています。学習者は、ブラジルやペルー国籍の幼児、小学生、中学生の皆さんです。学習者の保護者の口コミもあり、開塾した頃より参加者が少しずつ増えています。

学習者一人一人の日本語の理解度に応じ、簡単な日本語で説明したり、翻訳ツールを使用したりして、会話の確保を重点に学習を行っています。主な学習方法は、学校の宿題以外に、自作のプリントでの復習や、物や季節の言葉等のカードを用いた学習をしています。

また、双六やカルタなどの遊びや「こいのぼり」「あじさいの花」「七夕笹飾り」作りを体験することで、日本の文化に触れてもらうと共に、学習者同士が仲良く活動する機会を設けています。

さらに、2～3か月に一回、お菓子作りの講師を招いてイベントを行い、ほかの曜日に通っている人と触れ合える場を設定しています。今年度は「スモアビスケット」「チョコレートスコーン」「イチゴのショートケーキ」などを作り、楽しく交流できました。

今後も、学習者が楽しみながら日本語が習得できるように努めていきます。



▲学習の様子



▲イベントの様子



さくらんぼ塾

住所：豊橋市岩田町字北郷中8-7

Mail: asakuranobo2204@outlook.jp

Focus on!

世界の街かどレポート

世界各地で活躍する方々に現地の活動や交流の様子をレポートしていただくコーナーです。

JICA 海外協力隊ラオス (PC インストラクター 吉野 慎太郎、水質検査 江端 一徳)

「サバイディー！」これはラオス語で「こんにちは」を意味する言葉です。

現地では日々この挨拶が交わされ、笑顔とともに気持ちのよい一日が始まります。JICA 海外協力隊としてラオス中部の町・ボリカムサイ県に派遣された私たちも、この挨拶に励まされながら、日々の活動に取り組んでいます。

ラオスでは、自然と共に暮らす文化が今も色濃く残っており、四季ではなく「乾季」と「雨季」という二つの季節を基準に生活が営まれています。特に印象的だったのが、毎年5月頃に各地で行われる「ブン・バンファイ(ロケット祭り)」です。これは、雨季の到来を願って行われる伝統的な雨乞いの行事で、地元の人々が手作りのロケットを空に打ち上げます。その迫力はもちろんのこと、空に向かって祈るような視線や、笑顔でロケットを見送る子どもたちの様子には、自然と人が寄り添いながら生きてきたラオスの知恵と信仰が感じられました。

そんな文化を感じた私たちは、「日本文化も紹介しよう」と考え、配属先での活動とは別に有志で、ナイトマーケットでお団子の提供を企画しました。もち米文化が根付くラオスでは、日本のお団子もどこか懐かしさを感じさせるようで、「もちもちしていて美味しい！」という声もたくさん寄せられました。日本とラオス、離れた国同士でも、“食”や“祈り”を通じて通じ合える心があるのだと、改めて感じた瞬間でした。

ラオスの人々は、時間に追われることなく、自然と共にゆったりと暮らしています。その中で出会う文化や習慣は、私たちにとっても新しい発見の連続です。これからもこの国での経験を大切にしながら、日本とラオスの架け橋になれたらと思っています。



▲ナイトマーケットでのお団子提供の様子



▲ブン・バンファイの様子



皆さん、初めまして。マックスと申します。前任の国際交流員ライアンの後任で昨年8月に着任しました。未熟なところもあると思いますが、これからこの機関誌のコラムを担当いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

では、早速本題に入りたいと思います。昨年12月に、初めて日本でスポーツ大会を見に行くことができました。IGアリーナで開催されたISUグランプリシリーズのフィギュアスケート大会です。会場でチケットを提示するだけですぐ入場できることに驚きました。アメリカでスポーツ大会の会場に行けば、必ず空港のようにセキュリティチェックと金属探知機を通らないといけません。最近、限られたカバン類（小型や透明で中身が見えるもの）しか持ち込めないところも増えています。日本は本当に安全な国だなと改めて思い感動しました。

フィギュアスケート大会を見るのも初めてで、イベント自体がすごく楽しかったです。フィギュアスケートはあまり詳しくないですが、様々な国から訪れている選手を見られて、そして動きや曲選びから一人一人の個性が見えて興味深かったです。また、各競技プログラムの間に太鼓を叩いて、盛大にプログラムを開始していました。近代的なスポーツに日本の伝統文化が加えられて素敵だと思いました。女子シングルで優勝したアメリカ人アリサ・リュウ選手がインタビューを受けた時に「太鼓を叩いてみたい」とおっしゃって、実際に叩いてみたら会場がすごく盛り上がりまして印象に残りました。スポーツは言語を超えた文化交流にもなりますね！

皆さんも機会があれば是非フィギュアスケートを見てみてください！

～ワンポイント英会話～

■ Familiar with～（～に詳しい）

〈例〉 I am not very familiar with Figure skating.

フィギュアスケートはあまり詳しくないです。

■ Type(s) of～（～類）

〈例〉 Places where you can only bring in certain types of bags are on the rise.

限られたカバン類しか持ち込めないところも増えています。



■ 協会案内図及び交通案内



地下鉄名城線「名古屋城」駅5番出口より徒歩5分
地下鉄鶴舞線・桜通線「丸の内」駅1番出口より徒歩10分

■ 編集後記

近所の桜で有名な川では、お花見の季節になると、美しいアオサイを着たベトナムの方が写真撮影をする姿をよく目にします。ベトナムの方をより身近に感じるようになりました。最近では、最寄り駅前にベトナム食料店と併設したレストランもオープンし、好きなフォーを味わいに、ぜひ足を運んでみたいと思います。(1)

■ 開館時間案内

開館時間 月曜日から土曜日 10:00～18:00
(金曜日は10:00～20:30)

休館日 日曜日、祝日、年末年始(12/29～1/3)

■ 編集・発行

令和8年3月16日発行

公益財団法人愛知県国際交流協会

〒460-0001 名古屋市中区三の丸2-6-1 (愛知県三の丸庁舎内)

TEL: 052-961-7903 / 052-961-8744

FAX: 052-961-8045

URL: <https://www2.aia.pref.aichi.jp/>

*本誌を作成するにあたり、企業・個人の方に取材を通じてご協力いただいておりますが、登場する企業・個人の営業活動の促進を目的とするものではありません。